

# 宇都宮短期大学令和5年度卒業生への聴き取り調査結果

## 【人間福祉学科】

1. 実施日 令和5年11月11・12日（大学祭当日）
2. 回答者 14名（14・15・16・18期生各1名、17期生3名、21期生7名）  
内訳：社会福祉専攻（社会福祉履修モデル）8名、介護福祉専攻6名  
職業：正職員13名、その他1名

### 3. 聴き取り調査結果

（質問1） 人間福祉学科の学習成果に対して、現在できているかどうかをうかがいます。

#### 人間福祉学科の学習成果

- ・自己および他者を理解でき、自立・自律した生活の知識・技術を身につけている。
- ・福祉の基本的な知識・技術・方法を身につけている。
- ・社会福祉士を目指す学生は、ソーシャルワーカーに係わる専門的知識・技術・方法を身につけている。
- ・医療事務従事を目指す学生は、医療事務に係わる専門的知識・技術・方法を身につけている。
- ・介護福祉に係わる専門的知識・技術・方法を身につけている。
- ・人間尊重の精神と豊かな人間性を身につけている。

#### 1. 「自己を理解し、行動できている」

①できている：3 ②まあできている：11 ③あまりできていない：0 ④できていない：0

#### 2. 「サービス利用者・患者を理解し、配慮しながら行動できている」

①できている：4 ②まあできている：10 ③あまりできていない：0 ④できていない：0

#### 3. 「職場の上司や同僚に対して、配慮しながら行動できている」

①できている：7 ②まあできている：7 ③あまりできていない：0 ④できていない：0

#### 4. 「自分の身のまわりのことができている」

①できている：4 ②まあできている：9 ③一部は家族任せ：1 ④すべて家族任せ：0

#### 5. 「学校で身につけた、知識・技術を活かして業務を行うことができている」

①できている：9 ②まあできている：5 ③あまりできていない：0 ④できていない：0

(質問2) 就職した当初、戸惑ったことは、どんなことだったでしょうか。

- ・業務になかなか慣れることができなかった。
- ・就職の際の応募要項との齟齬や、業務について困惑することがあった。
- ・実習とは違い、正規職員としての立場や業務に対して戸惑った。
- ・仕事とひとり暮らしの両立が難しかった。
- ・職場の人間関係に戸惑った。
- ・上司との関わり方が難しかった。
- ・初めての職場のため、業務が行えるのか緊張した。
- ・利用者の障害特性等の多様さに応じたそれぞれの方に合わせた支援について戸惑った。
- ・子どもの発達に応じた関わり方が難しかった。
- ・電話対応や接客が難しかった。

(質問3) 本学への要望等

- ・体験学習をしてほしい。
- ・学生を県内の施設に輩出してほしい。
- ・リカレント教育を実施してほしい。
- ・介護福祉専攻を続けてほしい。

(質問4) 卒業生のリカレントへの要望等

- ・卒業生と在校生の交流の機会
- ・他者との意見交流の機会
- ・援助場面への対応について学ぶ場
- ・実技を学ぶ場
- ・福祉の現状を学ぶ機会
- ・オンデマンドの方法で学ぶ機会

#### 4. 学生の卒後評価に係る卒業生への聴き取り調査を通して

・本学科の学習成果の達成については、概ね「できている」「まあできている」という回答であった。

- ・質問2の就職時に関する自由記述に関しては、就職対策講座や就職ガイダンスで、求人票に関する知識や人事担当者・専門職の講話で業務への理解に関する内容も行っている。又、適宜、担任が個々へのサポートを行っている。
- ・質問3,4の自由記述にあるリカレントについては、例年、卒業生を対象としたリカレント講座を実施している。今年度も、令和6年3月にキャリア継続内容や交流の機会につながる講座の開催を予定している。
- ・上記、卒業生からの意見は、学科内で共有して学生に伝えていきたい。

## 【食物栄養学科】

1. 実施日 令和5年11月11・12日（大学祭当日）
2. 回答者 9名（2期生3名、3期生6名）  
職業：正職員7名、不明2  
勤務先：高齢者福祉施設3名、認定こども園2名、病院1名、大学生1名、その他2名

### 3. 聴き取り調査結果

（質問1） 食物栄養学科の学習成果に対して、現在できているかどうかをうかがいます。

#### 食物栄養学科の学習成果

- ・ 広い教養を身につけ、自立・自律した生活者としての行動規範を身につけている。
  - ・ 豊かな人間性と感性をもち、食に係わる基本的な知識・技術・方法を身につけている。
  - ・ 人間尊重の精神と、食に係わる専門的な知識・技術・方法等を身につけている。
  - ・ 倫理性をもった栄養士として、地域や社会の福祉に貢献できる能力を身につけている。
1. 「自分の身のまわりのことができている」  
①できている：2 ②まあできている：4 ③あまりできていない：3 ④できていない：0
  2. 「学んだ知識・技術を生かしている」  
①できている：2 ②まあできている：5 ③あまりできていない：2 ④できていない：0
  3. 「協調性をもって仕事ができている」  
①できている：6 ②まあできている：3 ③あまりできていない：0 ④できていない：0
  4. 「利用者に配慮しながら仕事ができている」  
①できている：6 ②まあできている：3 ③一部は家族任せ：0 ④すべて家族任せ：0

（質問2） 就職した当初、戸惑ったことは、どんなことだったでしょうか。

- ・ 人間関係が難しかった（2名）。
- ・ 体力仕事が思ったよりも多かった。
- ・ 一人暮らしで早番もあり、仕事の内容を覚えることが大変だった。
- ・ 正しい敬語の使い方が難しかった（メールの文章など）。
- ・ 栄養士としてひとりで教えてくれる立場の人がいない。
- ・ 覚えることがたくさんあり、毎日仕事に行くのに疲れすぎて眠かった。
- ・ 調理ができないのに、早く作業をすることが求められた。

- ・現場によってやり方が違うので、その場に応じて対応することが大切だと学んだ。

(質問3) 本学への要望等

- ・先生たちにたくさん会いたい。
- ・調理実習に呼んでほしい。

(質問4) 後輩へのアドバイスの等

- ・勉強もたくさんしておく、必ず役立つので頑張してほしい(2名)。
- ・調理ができないと何もできないので、調理技術は必須である。
- ・はじめは大変だけれど、根気よく続けていけば自然にできるようになる。
- ・在学中はたくさん遊ぶ、寝る、調理技術を磨くことが大切である。
- ・先生たちのアドバイスや授業で配付された資料を大切に保管しておく。
- ・人間関係を良好にできる力をつけておくことが必要である。

4. 学生の卒後評価に係る卒業生への聴き取り調査を通して

- ・本学科の学習成果に対しては、「できている」「まあできている」と高評価であった。
- ・在学生へのアドバイスとして、体力づくりや調理技術の向上を挙げている卒業生が多かった。また、普段の授業や資料を大切に、現場で生かしてほしいことなどが挙げられた。これらことを在学生にしっかりと伝えていきたい。
- ・卒業生へのリカレント教育として、現在実施している公開講座の発信をしていきたい。

以上